

大妻女大家政 高部啓子 ○九鬼種美 植竹桃子 松山容子

都立科学技術大 磯田 浩

目的： ボディやパターンの設計には、着衣基体としての人体の大きさ・形状に関する情報が基礎となるが、よりよいフィット性を求めるためには、さらに姿勢に関する情報に着目する必要があると考えられる。前回は、若年成人女子の身体右側面写真から得た測定値を主成分分析することにより、身体側面の形状解析を試みた結果、姿勢に関する2つの主成分が得られたことを報告した。本研究では、20年を隔てた最近の同年齢集団に対して同一の手法を適用した場合、同様の解析結果が得られるか否かを明らかにすることを主たる目的とした。

方法： 資料は、若年成人女子の身体右側面写真53例（1984～85年に撮影）である。解析項目は、sizeの要素を除外して姿勢情報をより明確にとらえるための写真計測値（水平距離29項目、高さ16項目）の対身長比と、胸部・胴部・腰部における横矢示数3項目の計48項目である。主成分分析は相関行列から進め、因子負荷量による主成分の解釈、さらに各個体の主成分得点などから検討を行い、写真により結果を確認した。

結果： 1. 今回の被検者のプロポーシオンは前回と比べると、相対的に脚が長く体幹部が厚いという傾向を示したが、項目相互間の相関行列はほぼ同様の傾向を示した。

2. 姿勢に関する主成分としては、反身・屈身を表す主成分と、胴部での屈曲の大小を表す主成分が抽出された。

3. 前記2つの主成分における横矢示数3項目の因子負荷量は極めて小さい。横矢示数3項目を除く45項目についての主成分分析の結果も、2.と一致したことから、体の厚みと姿勢との関係は少ないと考えられる。

以上のことから、前回と同様の結果が得られたと言える。